

鑑賞手帳



展示室で「もやもや」したとき、
『鑑賞手帳』を開いてみてください。

展覧会から持ち帰ったことを、
『鑑賞手帳』に綴ってみてください。

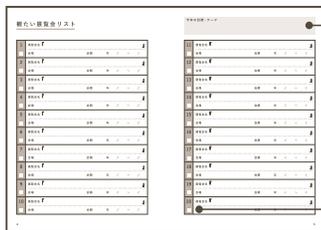
「もやもや」が、
「あ！」に変わるかもしれません。

あなたのアート鑑賞に、
楽しい気づきの感覚が増えますように。

『鑑賞手帳』の使い方

STEP 1 観たい展覧会をリストアップする

展覧会の開催予定を調べて、気になる展覧会を「観たい展覧会リスト (P4-5)」に書き込む。



観覧の目標やテーマを決めておくと、展覧会めぐりがさらに楽しくなります。

展覧会を観に行ったらチェックをつけよう。

STEP 2 作品を鑑賞する

①「じぶん鑑賞のすすめ (P37-46)」や②「美術作品の素材・技法・用語 (P54-55)」などを参考にしながら作品を鑑賞する。



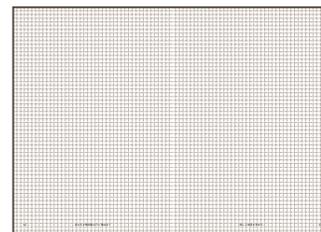
① | さまざまな鑑賞法を通して鑑賞を深めよう。



② | 作品キャプションを見て、分からない素材や技法があったら調べてみよう。

STEP 3 鑑賞体験を記録する

③「展覧会観覧記録 (P6-11)」や④「方眼シート (P12-25)」
⑤「無地シート (P26-33)」に鑑賞体験を記録する。



③ | 観た展覧会のタイトルや観覧日などを記入すると、観覧履歴を一目で確認できます。

④ | 展覧会の感想や気づきを記入したり、印象に残った作品をスケッチしてみよう。



⑤ | チケットの半券やチラシの切り抜きを貼ったりスタンプを押したりして、鑑賞の思い出を記録しよう。

『鑑賞手帳』を片手に、ぜひいろいろな美術館を巡ってみてください。

観たい展覧会リスト

1	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
2	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
3	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
4	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
5	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
6	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
7	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
8	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
9	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
10	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /

観覧の目標・テーマ

11	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
12	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
13	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
14	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
15	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
16	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
17	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
18	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
19	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /
20	展覧会名「 -----」
<input type="checkbox"/>	会場 会期 年 / ~ /

観覧会観覧記録 1

1 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 ()	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

2 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 ()	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

3 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 ()	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

観覧した展覧会のジャンルに○をつけよう

絵画・彫刻・写真・工芸・書道・現代美術・建築・デザイン・ファッション・その他

4 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 ()	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

5 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 ()	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

6 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 ()	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

展覧会観覧記録 2

7 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 () -----	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円 -----	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

8 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 () -----	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円 -----	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

9 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 () -----	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円 -----	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

観覧した展覧会のジャンルに○をつけよう

絵画・彫刻・写真・工芸・書道・現代美術・建築・デザイン・ファッション・その他

10 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 () -----	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円 -----	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

11 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 () -----	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円 -----	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

12 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 () -----	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円 -----	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

展覧会観覧記録 3

13 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 () -----	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円 -----	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

14 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 () -----	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円 -----	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

15 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 () -----	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円 -----	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

観覧した展覧会のジャンルに○をつけよう

絵画・彫刻・写真・工芸・書道・現代美術・建築・デザイン・ファッション・その他

16 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 () -----	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円 -----	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

17 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 () -----	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円 -----	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

18 「 <input type="text"/> 」	
会場 -----	総合 ☆☆☆☆☆
観覧日 年 月 日 () -----	感動 ☆☆☆☆☆
鑑賞時間 分 観覧料 円 -----	学び ☆☆☆☆☆
一言メモ	発見 ☆☆☆☆☆

鑑賞者一問一答

平成28年度版『鑑賞手帳』利用者アンケート調査より、美術館・美術鑑賞に関する質問への回答を紹介します。

展覧会を楽しむアイデア

展覧会を親に行った際に、始めの方からゆっくり見ていたら途中で疲れて後半は急ぎ足になってしまった、という経験はありませんか？ここでは、メリハリをつけて観覧することで、展覧会を隅々まで味わう楽しみ方を紹介します。

STEP 1 会場をざっくり1周する

まず「ごあいさつ」などのパネルを読んで展覧会全体の趣旨をつかむ。あまり立ち止まらずに会場を見て回り、展覧会の自分なりの注目ポイントを見つける。(色彩に注目する、展示手法に注目する、企画者の意図を意識する、など)また、展示作品の中で気になる作品を1~3点見つけておく。最後まで行ったら、もう一度最初の展示室に戻る。

○1周目はロケハン…最初に会場の広さや作品量を把握しておく全体をバランス良く観覧できます。



STEP 2 気になる作品をじっくり鑑賞する

1周目で決めた注目ポイントを意識しながら展示を観ていく。気になった作品は1作品3~15分程度かけてじっくりと鑑賞する。



STEP 3 鑑賞体験をふり返る

観覧後に展覧会の感想を『鑑賞手帳』に記録したり、一緒に観覧した人とお互いの感想を話し合ってみる。

○鑑賞は2度おいしい…見た作品を思い返すことで新たな発見が得られることがあります。

「わたしの観覧アイデア」を考えよう

わたしの観覧アイデア

鑑賞者の皆さんが普段行っている展覧会の楽しみ方*を紹介します。

- 展覧会チラシやHPをチェックして、気になった作家のプロフィールや代表作品を調べてから行く。
- アーティストトークやギャラリートークがある時に行ってみる。
- 好みに関わらず幅広いジャンルの展覧会を観てみる。
- 時間と気持ちにゆとりがある時に行くようにする。
- 観たい展覧会に合わせて旅行日程をたてる。
- 新聞の美術関連記事やテレビの美術番組を普段から見ようにする。
- 同じ展覧会を巡回展などで2回観る。(展示環境が変わると作品のイメージが変化することがある)
- 展示作品のなかで1点だけ好きな作品をあげますと言われたらどれがいいか?と考えて、お気に入りの1点を見つける。
- 観覧後に美術館のカフェやレストランで食事をしながら展覧会をふりかえる。

いかがでしょうか。

アイデア次第で展覧会の楽しみをさらに広げることができます。ぜひいろいろな方法を探してみてください。

*平成28年度版『鑑賞手帳』利用者アンケート調査回答より一部要約・抜粋



じぶん鑑賞のすすめ

「じぶんでみる」とアートがみえる、

アートをみると「じぶんがみえる」

「アートに正解はないから自分なりに楽しみましょう」と言われても、「どう楽しんだらいいんだろう？」と思う人は多いかもしれません。作家や作品について学ぶことはアートへの「理解を深める」ことには役立ちますが、アートを「自分なりに楽しむ」ことにはつながらない場合もあります。

「じぶん鑑賞」は、作品を「じぶんでみる（主体的に鑑賞する）」ことや作品を通して「じぶんをみる（自分の見方や考え方を知る）」ことによって、鑑賞の楽しみを深めていく鑑賞法です。

主体性を持って作品と向き合うと、今まで見えなかったものが見えたり、考えたことがなかったことを考えたり、知らなかった自分を知ったりと、得られる気づきが増えていきます。

そうした気づきの実感が、アートをみることの面白味や楽しさにつながっていくのではないのでしょうか。

じぶんで

まずは作品を「じぶんで」みるということから始めます。

次の5つのフィルターを通して作品を見ることを意識してみましょう。

1 じぶんの価値観

社会的・歴史的な作品の価値と、自分にとっての作品の価値は異なるものです。「巨匠〇〇の最高傑作」と言われる作品であっても、盲目的に「素晴らしい作品だ」と考える必要はありません。作家の著名性や作品の希少性にとらわれずに、ぜひ自分なりの価値を感じ取れる作品を探してみてください。

2 じぶんの眼

作品を見る前に解説文を読んで、「そういうもの」として作品を見ていることはありませんか。同じ作品を見ても、100人が見れば100通りの見え方があるというくらい多様な解釈ができることがアートの面白いところです。先入観にとらわれずに、自分の眼を通して作品を味わってください。

3 じぶんの感性

常識や既成概念が感じ方に蓋をしてしまっているということがあります。こどもが三日月を見て「バナナ!」と言ったりするのと同じように、見立てや連想をしながら感性的に見てみることで、作品から感じ取れることの幅が広がっていきます。

4 じぶんの知性

美術の専門知識を持たなくても、自分が感じた印象に対して、「どうしてそう感じたのか」ということを考えながら根拠付けていくと、「なんとなくこう感じる」という「印象」から、「こうした造形要素からこう感じ取ることができる」といった「解釈」へと見方を深めていくことができます。

5 じぶんの経験・記憶

映画や小説を読んだ時に、昔は理解できなかった部分が人生経験を積むと分かってくる、ということがあるように、過去の体験や思い出と照らし合わせて作品を見ることで、自分にしか見えないものが見えてきます。

みる [基本編]

次は作品を「みる」ということについて考えてみます。

じぶん鑑賞における「みる」は、物理的に見る（視界に入れる）だけでなく、作品から感じ取ったことをもとに想像・発想したり、発見したことをもとに思考・解釈する活動です。

さまざまなアクションを通して実践してみましょう。

じぶんで「みる」ことに役立つアクション

1 石の上にも三分 30秒→1分→3分と、1つの作品を見る時間を長くしてみる。	5 ためつすがめつ 作品を色々な角度（斜め・上下逆など）から見て、見え方の違いを味わう。
2 鳥の目 作品から少し離れて俯瞰し、全体から受ける印象を感じとる。	6 色なし眼鏡 一度作品を見たあとで解説文やキャプションを読み、再度作品を見直す。
3 虫の目 作品の細部を観察し、筆づかいや質感に注目して見る。	7 見立て 作品に描かれているものや作品自体を、似ている別のものに見立ててみる。
4 魚の目 作品に描かれたモチーフ同士の流れ（関係性）に注目して見る。	8 まちがいさがし 2つの作品を見比べて、共通点や違いを探してみる。（色・形・印象など）

9 | 青春時代

作品の制作年に注目して、当時の自分や社会状況を思い出してみる。

14 | コレクター

お金を出して買いたいと思う作品を選ぶ。いくらなら買うかも考えてみる。

10 | あばたはえくぼ？

好きな作品の短所、好きじゃない作品の長所をあえて探してみる。

15 | コピーライター

作品に自分なりのタイトルをつけてみる。

11 | センス・オブ・ワンダー

風景や自然物、人工物をアート作品として鑑賞してみる。

16 | 占い師

作品から、作者の性別や年齢、性格、人生などを想像してみる。

12 | サンタクロース

家族・友人・恋人など身近な誰かにプレゼントするつもりで作品を選ぶ。

17 | 小説家

作品に描かれた場面から、オリジナルの物語を作ってみる。

13 | インテリアコーディネーター

自分の家に飾りたい作品を選ぶ。どこに飾るかも考えてみる。

18 | 俳人

五・七・五で、作品を表す句を詠んでみる。

いかがでしょうか。

漠然と見ずに能動的に「みる」ことで、より多くの気づきを得ることができたのではないかと思います。

みる [応用編]

5つのステップを通して「みる」ことをさらに深めてみます。

気になる作品に対してじっくり鑑賞する場合などに実践してみてください。

マルク・シャガールによるバレエ「アレコ」の舞台背景画
第2幕（カーニバル）の場合

STEP 1

作品の第一印象を
一言で表現する。

例：「陽気な雰囲気」

STEP 2

作品に描かれているものを
モチーフごとに細かく見る。

例：「熊のような動物がバイオリンを持っている。熊は二足立ちして口元は笑っており、人間のようにも見える。バイオリンは…」

近づいて細部を見たり、少し離れて全体を見たりしながら、なるべく多くのことを発見してみましょう。

STEP 3

作品の「どこに・何が・どんな
風に」描かれているかを言葉
にして説明する。

例：「画面右側には熊と猿が描かれていて、バイオリンを演奏しようとしている熊に猿がいたずらを仕掛けているようだ。画面左側には家々が描かれていて、地面は斜めに傾いている。画面中央には…」

この手法は「ディスクリプション（作品記述）」と呼ばれているもので、読み取った造形要素や感じた印象を自分の言葉に置き換えて表現することで、作品の認識をより鮮明にします。

STEP 4

第一印象と比較しながら、
もう一度作品の印象を
感じ取る。

例：「最初は明るい絵だと思ったが、地面が崩れかけているようなところを見ると、陽気な雰囲気の中で少し不穏な空気が不安さを感じる。」

ディスクリプションを通して一目見ただけでは見えなかったものに気づくと、自分の印象が変化することがあります。

STEP 5

タイトルを読み、自分なりに
作品を解釈してみる。

例：「タイトルは《カーニバル》。自分が感じた陽気な雰囲気は、確かにカーニバルの祝祭的な雰囲気と合っている。もしかしたら熊はカーニバルで演奏している仮装した人間なのかもしれない。そう考えると、「傾いた地面」は、カーニバルの後に何か不吉な出来事が起きることを暗示しているように見える。」

タイトルだけでなく作品の解説文を読む場合は、客観的な事実（作品の制作経緯や時代背景、作家が語った言葉など）と主観的な見解（「○○を感じる作品である」「○○を描いたものと思われる」といった執筆者の解釈）に分けて考え、客観的な事実は「作品にまつわる情報」として、主観的な見解は「他者の見方」として参考にし、自分の見方が解説通りの見方へと無意識に流されないようにしてみましょう。

アートがみえる

「じぶんでみる」方法が分かったところで、「アートがみえる」ということについて少し考えてみたいと思います。「社会的・歴史的な作品の意味（客観的価値）を理解すること」を「アートがわかる」とするなら、「アートがみえる」というのは、「自分にとっての作品の意味（主観的価値）を見いだすこと」です。

先程の「みる」の5つのステップで例として述べられていた意見は、実は当館を訪れた小学生や中学生たちによる発言です。彼らは、色彩や形、質感といった目に見える造形的な情報や、こどもなりの感性と知性を総動員して、「あぁじゃない？ いや、こうじゃない？」と作品を読み解いていきます。

では、もしあなたが一見「ナンダコレ？」と思ってしまうような不思議な作品と出会い、ぱっと見ただけでは「よく分からない…」と感じたら、そのあとのくらしい作品を見続けるのでしょうか。

私たち大人は、「分からない」ということの煩わしさにあまり長い時間耐えられないことが多いような気がします。でも、もしあと30秒見続けていたら、なにかに気づいていたかもしれません。

誰にとっても、初めて見る作品は「知らないもの」「分からないもの」です。そうした未知なるものに対して好奇心や想像力を持ち続けるエネルギーが、「じぶんでみる」ことの原動力になっているように感じます。「分からない」と自体も楽しんで見続けると、なにかを発見したり、自分なりの作品の見方を持つことができます。

「じぶんでみる」ことで得られる気づきによって「アートがみえてくる」ということが、鑑賞の面白味をさらに深めてくれるのではないのでしょうか。



じぶんがみえる

趣味でアート鑑賞を始めたある人は、日常のふとした光景を見て「綺麗だな」と感じたり、日用品を見て「面白い形をしてる」と思ったりするようになったと話していました。アートをみる眼で身の回りの世界を見つめてみると、知っているはずの世界が今までとは違って見えてくることがあります。

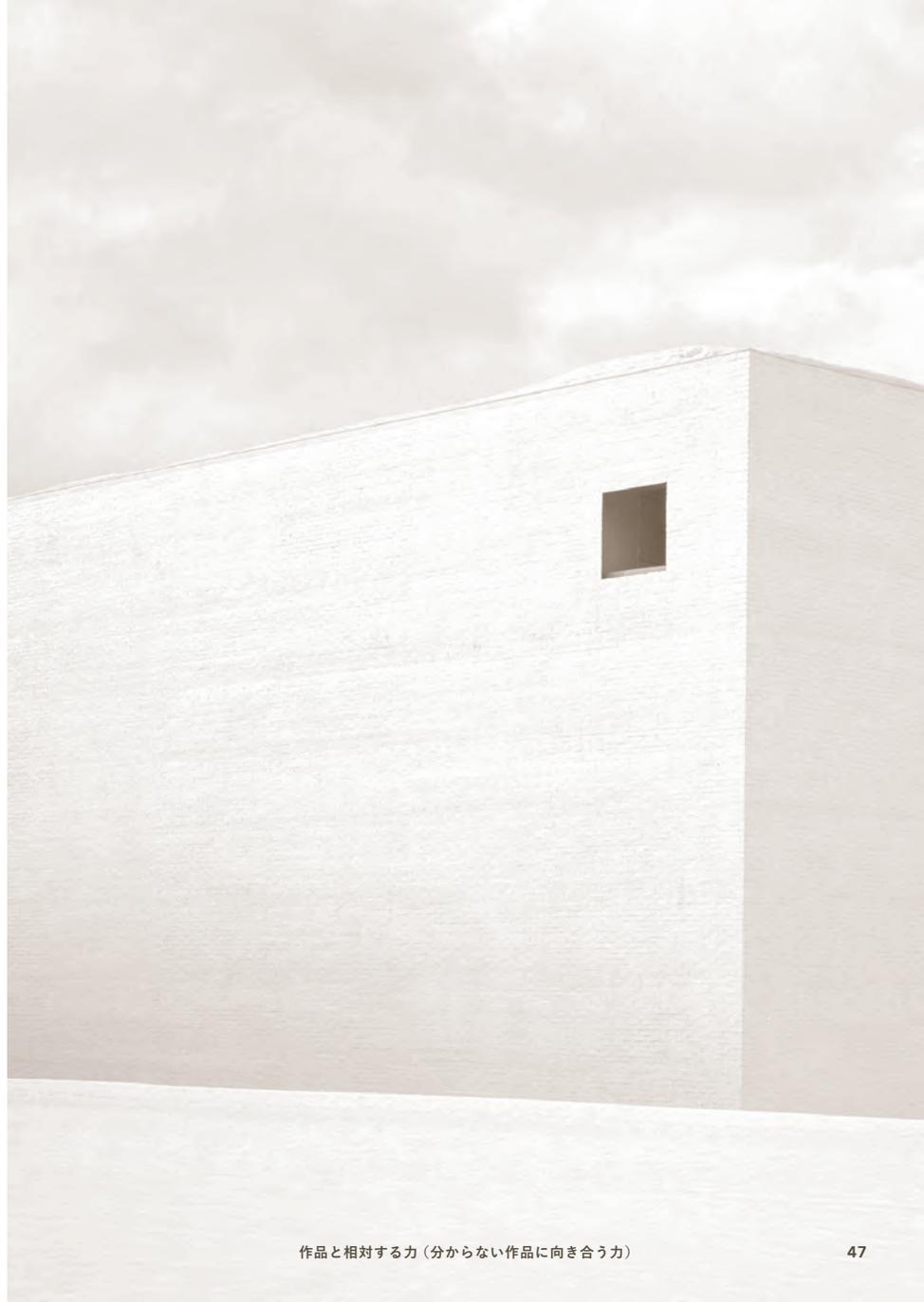
目に見えるものだけでなく、「○○はこういうものだ」という認識や考え方に対しても、アートは「本当にそうだろうか」という問いを投げかけます。たとえば、「空は青いものだ」と思っている人が、作品を通じて「緑色の空」や「黄色の空」に出会うことで、自分が知っているはずの「空」について少し立ち止まって考えてみることになるのです。

「じぶんがみえる」ということは、作品が鏡となって「自分自身がどのようにものを見て、どのように感じ、どのように捉えているのかが見える」ということであり、それは自分の見方や考え方のなかに無意識に潜む常識や既成概念に気づくことにつながります。

その気づきを通して、私たちは、物事をこれまでよりやわらかく豊かに捉えるまなざしを得ることができるのではないのでしょうか。そしてそのまなざしは、先程紹介したある人のように自分のものの見方の変化となったり、ちょっと大げさかもしれませんが、自分の考え方や生き方にも変化を与えるものとなるかもしれません。

さて、ここまでじぶん鑑賞の考え方や手法について紹介してきました。

ここで紹介した方法は、アート鑑賞を楽しむさまざまな可能性のうちのひとつです。自分に合う部分を取り入れてみたり、独自の楽しみ方を発見したりしながら、ぜひあなたなりのアートの楽しみを広げていってもらえればと思います。



2017年の鑑賞者像

(平成28年度版『鑑賞手帳』利用者アンケート調査結果抜粋)

私たちはアートをどのように楽しみ、鑑賞行為から何を得ているのでしょうか。また、鑑賞者にとって美術館はどのように機能しているのでしょうか。『鑑賞手帳』利用者を対象に行ったアンケート調査から、現在の鑑賞者の姿を探ります。

Q1. 興味のある美術分野

- 1位 **絵画** …21%
- 2位 **現代美術** …14%
- 3位 **彫刻** …12%
- 4位 写真 …11%
- 5位 建築 …10%
工芸 …10%
- 6位 映像 …8%
デザイン …8%
- 7位 書道 …5%
- 8位 その他 …1%

Q2. 年間展覧会観覧数

平均 **7.8** 回

最大 **25** 回、最小 **1** 回

Q3. 展覧会観覧目的

- 1位 **気分転換・リフレッシュ・癒し** …17%
- 2位 作家や作品に関する知識や情報を得る …15%
知的好奇心や探究心を満たす …15%
- 3位 感性を豊かにする・感性を磨く …12%
自分と異なる感性や価値観に触れる …12%
- 4位 地域観光や旅行の一環 …11%
- 5位 物事の見方や視野を広げる …9%
- 6位 文化的教養を身につける …8%
- 7位 その他 …1%

Q4. 鑑賞体験において重視すること

- 1位 **好きな作品や気になる作品に出会う** …20%
- 2位 作品の造形的な美しさを味わう …12%
作者の意図や心情を感じ取る …12%
自分なりに作品の意味を読み解く …12%
作品から何らかの気づきや発見を得る …12%
- 3位 作品の主題や作品背景を理解する …9%
有名な作家の作品や国宝・重要文化財に指定された作品を見る …9%
- 4位 社会的・歴史的(美術史的)な作品の価値や位置づけを理解する …7%
- 5位 より多くの作品を見る …6%
- 6位 その他 …1%

Q5. 美術鑑賞について、「難しい」と感じたことはありますか？



Q6. 美術鑑賞のどのような部分が「難しい」と感じますか？

- 自分がそれまでに見てきたもの・学んできたものの範囲でしか作品を理解できないように思うので、毎回、その枠(?)を超えられないような感じがしてもどかしい気分になります。
- 現代美術においては作者の意図がわからないことが多い。感じたままでいいと言われるが、普通の私は理解しようとしてしまう。
- 抽象すぎて何が書いてあるのかさっぱりわからない時。
- 自分の「いいな」と思う所と作者の見てほしい、こだわり点が違う時。
- 評価を得ている作品を共感できない場合。
- 作者の想いをくみとる事。
- 彫刻の鑑賞。
- 写真や映像はどう鑑賞したらいいのか分からない。
- 映像作品は鑑賞時間が限られている場合、興味があるにもかかわらずとばさざるを得ないことが多い。よって理解を深めるまでに至らないことが残念。
- 「わからない」「(楽しめない)」時に、どんな情報やきっかけ、刺激があればいいかわからない時がある。展示室内に手がかりがない。
- 他人との共有の仕方が分からない。
- 言葉であらわせない、どう表現したら伝わるのか考えてしまう時。
- 鑑賞という言葉が難しいのでとっつきにくい。

Q7. 美術鑑賞について、「楽しい」または「面白い」と感じたことはありますか？



Q8. 美術鑑賞のどのような部分が「楽しい」または「面白い」と感じますか？

- 具体的に何がそうしているかは分かりませんが、作品を見たときに全身の毛穴がぶわっと開くような感覚になったり、心臓からぎゅっとつかまれたような気持ちになったり、普段の日常では味わえないような感覚や体験を得られるときがあるから。
- 思いがけない所で心の灯りにスイッチが入った時。
- よく見ているうちに発見があると面白い。
- いろんな見方がある事。その日の自分の気分によっても同じ作品でも見方が違う事。
- 鑑賞後話をすると、人によって見方がちがっていたり、注目する所がちがっているのが面白いと思いました。
- 「へえ～そうなのか」とかいろいろな事が知れるのが楽しい。
- 見るだけで楽しい。
- 自分にはできない、つくれないモノを見ることができる。
- 新しい視点で物事や日常をとらえられる。
- 自分の中で作品の意味や内容を形成できた時。
- 有名な作家の代表作とは全く違う作風を見た時に面白いと感じます。
- 作品から作者だったり、背景だったり色々なバックグラウンドを想像して楽しめること。
- Q6の答えと逆になるが、現代美術に「楽」「面白い」と感じる。

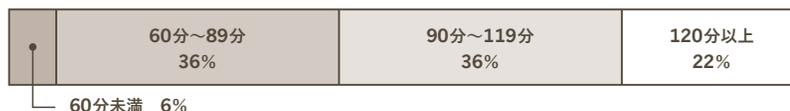
Q9. 誰と展覧会を観に行くことが多いですか？



Q10. 美術館を訪れた際の平均的な滞在時間を教えてください。



Q11. 1つの展覧会を観覧する際の平均的な観覧時間を教えてください。



Q12. 1つの作品に対して、これまでで最も長く鑑賞を行った際の鑑賞時間を教えてください。



Q13. 美術館で開催されるギャラリートークやガイドツアーに参加したことはありますか？



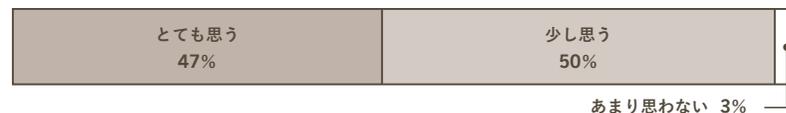
Q14. 美術館での鑑賞環境(展示室内の環境や鑑賞に関わる来館者サービス)について満足していますか？



Q15. 観覧した展覧会について、他人に感想を話すことはありますか？



Q16. 美術作品の鑑賞の仕方について、「知りたい」または「学びたい」と思いますか？



Q17. 美術作品の鑑賞の仕方について、「知りたい」または「学びたい」と思った際に、必要な情報を得る手段や機会(書籍・講座・テレビ番組など)が十分にあると思いますか？



美術作品の素材・技法・用語

作品リストや作品キャプションには、「素材や技法・支持体（素材を支える物質）」の順に表記されることが多いです。（各美術館によって表記方法は異なります）

ア

アクアティント	酸などの腐蝕作用を利用して金属板に画面の濃淡を表現し、版を作る凹版画技法。
アッサンプラージュ	日用品や廃物などを寄せ集めて制作された作品及びその技法。
インスタレーション	特定の空間全体を作品として構成する現代美術の表現手法。
エスキース	作品の構想を練るために描かれた絵や図。下絵。試し描き。
エッチング	酸などの腐蝕作用を利用して金属板に線描し、版を作る凹版画技法。
FRP	Fiber-Reinforced Plastics（繊維強化プラスチック）の略称。
エングレーヴィング	金属板に直接線を彫り版を作る凹版画技法。
オフセット	輪転機などを用い、水と油の反発作用を利用してインクを転写する平版画・印刷技法。
オリジナル・プリント	写真家が自己の作品として認めたプリント（印画・印刷された写真）のこと。

カ

金彩 <small>きんさい きんだみ</small>	金箔や金泥を用いて彩画する装飾技法。
クロッキー <small>けいぼんちやくしよく</small>	対象を短時間で素早く描くこと、またそのようにして描かれた絵や図。
絹本着色	絹に岩絵具などで彩色を施す日本画技法。
コラージュ	様々な素材を画面に貼り付けて作品を構成する絵画技法。
コラグラフ	紙を版の材料として使用する凸版画技法。紙版画。

サ

紙本着色 <small>しほんちやくしよく</small>	紙（和紙）に岩絵具などで彩色を施す日本画技法。
シルクスクリーン	枠に絹やナイロンの布を張ったものを版として用いる孔版画・印刷技法。
ゼラチン・シルバー・プリント	フィルムで撮影し感光剤（銀塩）の作用により印画紙にプリントする写真の印画方式。
象嵌 <small>ぞうがん</small>	地となる素材の表面に異なる素材をはめ込んで模様を作る工芸の装飾技法。
染付 <small>そめつけ</small>	白地に酸化コバルトで絵付けし、透明釉をかけ藍色に焼成した陶磁器及びその技法。

タ

タイプCプリント	カラーフィルムで撮影しカラー印画紙にプリント（発色印画）する写真の印画方式。
多色木版	複数の色を使用して摺られた木版画（多色摺り木版画）。

タブロー <small>ちゅうぶ</small>	木板やキャンバスに描かれた絵画。また、絵画において完成作品を指す言葉。
宙吹き	金属管に息を吹き込み、空中でガラスを膨らませる成形技法。吹きガラス。
テンペラ	乳化作用を持つ固着剤で顔料を混ぜ合わせた絵具及びこれを用いる絵画技法。
ドライポイント	金属板に直接彫った線とそのまくれによって版を作る凹版画技法。
ドロ잉 <small>そびょう</small>	主に単色の鉛筆・ペンなどで描かれた線画。素描。デッサン。

ハ

ブリコラージュ	ありあわせの物でやりくりすること。素材や道具を別の目的に役立てること。
フレスコ画	乾ききっていない漆喰の壁に水溶性顔料で描画し、乾燥により定着させる壁画技法。
プレタポルテ	（高級）既製服。
ブロンズ <small>ぼくが</small>	青銅（銅とスズの合金）。
墨画 <small>すみえ</small>	水墨画。墨絵。
墨彩 <small>ぼくさい</small>	水墨画に顔彩などの水彩絵具で彩色を加えたもの。
ボショワール	フランス語で「ステンシル」の意。形を切り抜いた型によって摺る孔版画技法。

マ

蒔絵 <small>まさえ</small>	漆器の表面に漆で描画し、その上に金粉や銀粉を蒔いて固める漆工芸の装飾技法。
マチュール	絵画などの作品表面の質感。絵肌。また、作品素材がもたらす材質的效果。
ミクストメディア	複数の素材や技法により作品を構成すること。
メゾティント	全面に細かな点線を刻んだ金属板の一部を削り取ることで版を作る凹版画技法。

ヤ

釉裏紅 <small>ゆうりこう</small>	白地に銅の顔料で絵付けし、透明釉をかけ紅色に焼成した陶磁器及びその技法。
-----------------------------	--------------------------------------

ラ

ラ <small>らでん</small>	漆器などの表面にヤコウガイやアワビなどの光沢をもつ貝片をはめ込む装飾技法。
螺鈿	
リトグラフ（石版画）	石や金属板にクレヨンなどで描画し、化学変化を利用して版を作る平版画技法。

『鑑賞手帳』

編集 片山尊奈（青森県立美術館）

企画協力 藤田令伊

印刷 青森オフセット印刷株式会社

発行日 2018年3月

発行

青森県立美術館

〒038-0021 青森市安田字近野185

Tel 017-783-3000

Fax 017-783-5244

www.aomori-museum.jp

禁無断転載・非売品

© 2018 Aomori Museum of Art

青森県立美術館
AOMORI MUSEUM OF ART